

岩内に育つ子どもたちの9年間の教育課程編成

義務教育学校設立に向けた主たる学校行事の年次計画について

岩内町立岩内東小学校

☆主たる学校行事に向けて提示された内容を踏まえ提案する。

①体育的行事について（運動会）

・令和3年度	半日日程	西小の内容を把握しておく。 一中生徒のボランティアとして参加を要望。 児童と中学生の交流を深める機会を設定する。	・内容については、教科内容に関わるため、令和4年度に内容の統一を図るようにする。
・令和4年度	半日日程	西小と内容の統一を進める。 一中生徒のボランティアとしての参加。	令和5年開催時ににおいては
・令和5年度	小中合同開催 1日日程	(8時半～14時半終了程度) 地区ごと開催。	小小の内容を統一する。
・令和6年度	小中合同開催 1日日程	(8時半～14時半終了程度) 地区ごと開催。内容を統一。	

★問題点等

- ・運動会及び体育大会のねらいを達成できるのか。ねらい、内容の検討が必要。
- ・小中合同となっても小学校は午前が望ましい。会場は小学校。
- ・事前の取組は？
- ・小学生には200mトラックが望ましい。
- ・小中の運動会より、小小の運動会の方が必要。しかし、事前の取組は難しい。
- ・小小、小中になっても一日日程になることも考えられる。令和7年度の姿を共有する必要がある。

②文化的行事について（学芸会）

・令和3年度	半日日程	西小の内容を把握しておく。 一中生徒のボランティアとして参加を要望。 児童と中学生の交流を深める機会を設定する。	・135年音楽 ・246年劇
・令和4年度	半日日程	西小と内容の統一を進める。 一中生徒のボランティアとしての参加。	・義務教育学校を見据え、現行の内容を見直し、小小で協議する。
・令和5年度	小中合同開催 1日日程	(8時半～14時半終了程度) 地区ごと開催。	
・令和6年度	小中合同開催 1日日程	(8時半～14時半終了程度) 地区ごと開催。小小の内容を統一。	

★問題点等

- ・行事のねらいを達成できるのか。
- ・運動会同様、開校年度の令和7年度の姿は？

- ・当日、会場を一つにして行うことが必要か。閉校最後の学芸会として行うことに意義があるのではないか？
- ・事前の活動をしてきた場所での発表が望ましい。

③ 旅行的行事について（宿泊学習・修学旅行）

- ・令和3年度 学校単位で実施
- ・令和4年度 学校単位で実施
- ・令和5年度 学校単位で実施 内容統一
- ・令和6年度 小小合同で実施 内容統一

・令和5年度の5、6年児童から両校の学習内容を統一した教育活動ができるようにする。令和4年度前半までには確定できるように協議を進めていく。

★問題点

- ・ねらいを達成できるのか。
- ・令和6年度 小小合同となった場合、事前の合同の取組は可能なのか？
- ・遠足や宿泊的行事を合同で行い、グループ構成も学校の枠を越えて行うことができるのか。当日のみの活動では意味がない。

④ 総合的な学習の時間の取組

- ・令和3年度 学校単位で実施
- ・令和4年度 学校単位で実施
- ・令和5年度 学校単位で実施 内容統一
- ・令和6年度 学校単位で実施 内容統一

・宿泊学習、修学旅行との関連
 ・令和5年度、統一した内容で取り組めるように、令和4年前半までに協議していく。
 ・キャリアパスポート

⑤ その他

- ・令和7年度開校時に、児童生徒が戸惑うことなく学校生活がスタートできるように準備を進める。日常の活動に重点をおく必要がある。
 - 中学校による乗入授業の継続 ●小小の授業交流 ●日課表の統一
 - 災害発生の際の対応や連携 ●部活動、給食、清掃、児童生徒会活動
 - 学習ノートの統一 ※中学校へ移行も考慮・道徳ノート、キャリアパスポート等も含む。
 - 夏季冬季休業 6年生が中学校において部活動や授業体験を行ったり、中学生が学習会へのボランティア活動を行ったりする。
 - 施設、備品等の物的環境 ●指導の在り方 ●不登校児童等への指導 など

問題点は多い。学校行事の年次計画の検討も必要であるが、令和7年開校の義務教育学校の姿（9年間を通じた教育活動を含めた学校運営）や教育課程に対応した施設一体型義務教育学校の教育目標や学校運営が明確になっていることで、町内4校が開校に向けて準備を進めることができる。また、教育課程に対応した施設環境が整備されなければ、具体的な教育活動を検討することができない。よって、まずは義務教育学校の教育目標や学校運営について町内の全職員に提示する必要がある。それにより、開校に向けて町内で統一すべきことが明確になり、各校の現在の教育課程に取り入れ、開校に向けて準備を進めていくことができると考える。

○教育目標や学校運営 ○施設環境 ○学年制 ○学期 ○日課 など

岩内に育つ子どもたちの9年間の教育課程編成

岩内西小学校が考える小中9年間の教育課程の編成

岩内町立岩内西小学校

1 レポート作成にあたって

令和7年度に義務教育学校が開校するまで、残り4年となった。町内の4校が1つになり、700名以上の一体型校舎の中で教育課程を進めることになる。残り期間を踏まえながら、各校で現在行っている教育活動を少しずつすり合わせ、開校年度にスムーズな活動を始めるように準備を進める必要がある。

しかしながら現時点では、残りの4年間でどのようにすり合わせるか、不透明な状況である。それに加え、義務教育学校が開校する際に、学年段階の区切りをどうするのかなどを始めとする、「教育課程編成のための土台」自体が明確になっていないのが現状である。

そこで今回は、「学校行事」に視点を絞り、4校の活動をすり合わせていくことについての年次計画について、西小としての見解をまとめてみた。

2 学校行事のあり方について

(1) 令和3～6年度の体育的行事(運動会・体育大会)・文化的行事(学芸会・文化祭)

義務教育学校で体育的・文化的行事を行う際に、全学年一斉に一日日程で行うことも考えられる。それに向けて、開校初年度までに合同開催を試行しながら内容を検討していくことも案として考えられるが、岩内町の義務教育学校の規模や、小学生の発達段階、施設面の観点から、以下のような問題が考えられる。

- ・小学校の運動会・学芸会は発表会的な要素も強く、練習も本番を想定しながら実際の会場で積み重ねる必要があり、小中合同の会場で練習を行うのには小学校で行うのが望ましく、そうすると中学校にも負担が想定される。
- ・義務教育学校になった際に、これらの行事を一日日程で開催するのは、観覧する保護者の負担軽減には望ましいが、学年が9学年&児童生徒数が700人以上の規模になることかつ、小中合同で行うことで取組が多岐にわたる現状を考えると、一日日程よりも複数日程で行う方が望ましいと思われる。

これらの点を踏まえ、体育的行事と学芸的行事の取り組み方について、以下の方向で検討してはどうか。

- ・義務教育学校の体育的行事は、学年段階の区切りごとに分けて行う。
(例：④-③-②であれば、初日④、2日目午前③、午後②など)
- ・会場の準備の困難さや、それに関わる児童生徒や教職員の負担を減らすため、令和6年度まで合同実施はせず、各校で行う。ただし、令和6年度までに義務教育学校初年度の体育的&文化的行事の行い方を決定するための年次計画を策定する。

学校行事調整のための年次計画を、以下のように提案したい。

- (案) 令和3年度 岩内町義務教育学校の学年段階の区切り、学期の設定など、教育課程作成の前提となる部分を協議・決定**
令和4年度 義務教育学校の教育課程の大枠を協議・決定
それを踏まえ、各行事の取り組み方を検討
(この年度まで、行事は各校で例年並みに実施)

**令和5年度 各段階ごとの行事の取り組み方を協議・決定
それを踏まえた内容で、各校で行事を試行実施
(小小・中中で可能な限り内容を揃える)**

**令和6年度 義務教育学校初年度の体育的・文化的行事の取り組み方について、保護者へ周知→それを踏まえた内容で、各校で実施
※小小・中中で内容を揃えるのが望ましいが、この年度が
閉校前最後の行事になるため、記念的活動なども含め、
内容は縛りすぎず、柔軟性を持たせる**

(2) 令和3～6年度の旅行的行事(宿泊学習・修学旅行)について

旅行的行事についても開校初年度までに合同開催していくことも案として考えられる。ただこれも上記(1)と同様に、義務教育学校開校後の実施の仕方について、教育課程検討のうえで考える必要があるため、令和3～6年度の中で行事の取り組み方を協議・決定したうえで、必要に応じて合同開催を行うべきであるとする。

(3) その他の行事について

義務教育学校では、9年生までの児童生徒が一体型校舎の中ですごしながらも、1～6年生(前期課程)は小学校の指導要領、7～9年生(後期課程)は中学校の指導要領で学習を行いつつ、段差の解消を目指し、④-③-②や、⑤-④などの区切りを設ける。それに合わせて、区切りごとの行事や、課程ごとの行事が必要となる。先進事例校では、以下のような行事が設定されている。

(例) ④-③-②の場合

- ・4年生…2分の1成人式・ブロックリーダー引継ぎ式・ブロック修了式
- ・6年生…前期課程修了式
- ・7年生…立志式・後期課程進級式

これらの行事についても、上記(1)の年次計画では令和4年度までに実施行事を協議・決定し、令和5年度には素案を作成、可能なものについては令和6年度に試行実施も考えていく。

(4) 学年段階の段差をなくす取組

先進事例校を例にすると、以下のような取組を検討していくことが考えられる。

- ・5・6年生における50分授業・定期考査の実施
※日課についても開校年度までに決定し、可能であれば令和6年度に試行実施
- ・5・6年生における部活動体験・生徒会活動への参与
- ・交流学年の設定(例:1/4/7年・2/5/8年・3/9年)
- ・1～9年生での縦割り活動や、児童会・生徒会の合同活動

これらの取組については、各校からの意見を持ち寄り、来年度以降の教育課程担当者会議で協議していくことが必要である。

3 まとめ

岩内の義務教育学校の教育課程を編成していくにあたり、義務教育学校のグランドデザイン・子ども育成の基本構想・学年段階の区切りと校舎利用の仕方などを明確にしていく必要がある。それをふまえ、区切りごとの指導目標や具体策などがあつたうえで、学校行事のあり方を検討していくべきであるとする。

岩内に育つ子どもたちの9年間の教育課程の編成

小中9年間の教育課程の編成

岩内町立岩内第一中学校

1. 令和3年度～令和6年度までの体育的行事（運動会、体育大会）の年次計画

年度	内容
令和3年度	体育大会と陸上記録会との分離開催について検討初年度
令和4年度	体育大会と陸上記録会との分離開催について検討初2年次目
令和5年度	・ 体育大会的要素を取り入れた小学校との合同体育祭※試行初年度 ・ 二中との合同陸上競技記録会（陸上競技大会）※試行初年度
令和6年度	・ 体育大会的要素を取り入れた小学校との合同体育祭※試行2年目 ・ 二中との合同陸上競技記録会（陸上競技大会）※試行2年目

義務教育学校における体育的行事が、運動会要素を取り入れた内容になることを想定し、全校（1年生から9年生）で行う体育大会（運動会）と後期課程の生徒のみで行う陸上記録会の開催を提案する。

◎ 体育大会（1年生から9年生まで、全校一斉）

- ・ 短距離走や団体種目他、異学年交流をねらいとした縦割り種目の考案・採用

◎ 陸上記録会（後期課程のみ）

- ・ 従来中学校で行ってきた、陸上競技個人種目（リレー含む）のみでの開催
- ・ 学級対抗による対抗戦方式を採用し、行事の盛り上がりの創出、集団の一員として学級におけるよりよい生活づくりへの参画意識の高揚

2. 令和3年度～令和6年度までの文化的行事（学芸会、文化祭）の年次計画

年度	内容
令和3年度	合唱コンクールとよさこい学習発表会との分離開催について検討初年度
令和4年度	合唱コンクールとよさこい学習発表会との分離開催について検討2年次目
令和5年度	・ 学習発表会としての小中合同開催（学年よさこい発表）※試行初年度 ・ 二中との合同合唱コンクールの開催（文化センター使用）※試行初年度
令和6年度	・ 学習発表会としての小中合同開催（学年よさこい発表）※試行初年度 ・ 二中との合同合唱コンクールの開催（文化センター使用）※試行初年度

義務教育学校における文化的が、学芸会的な発表会になることを想定し、全校（1年生から9年生）で行う学習発表会（学芸会）と後期課程の生徒のみで行う合唱コンクールの開催を提案する。

◎ 学習発表会（1年生から9年生まで、全校一斉）

- ・ よさこいや演劇他、異学年交流をねらいとした縦割り種目の考案・採用
→ よさこいは運動会のなかで異学年交流種目としても位置付けることが可能

◎ 合唱コンクール（後期課程のみ）

- ・ 従来中学校で行ってきた、学校祭での合唱コンクールの開催
- ・ 学級対抗による対抗戦方式を採用し、行事の盛り上がりの創出、集団の一員として学級におけるよりよい生活づくりへの参画意識の高揚

3. 令和3年度～令和6年度までの旅行的行事（宿泊学習、修学旅行）の年次計画

年度	内容
令和3年度	令和4年度修学旅行・宿泊研修・社会体験学習日程調整
令和4年度	日程・宿泊施設を同一にした修学旅行・宿泊研修の実施 ※ 内容は学校別、※ 検討初年度
令和5年度	日程・宿泊施設を同一にした修学旅行・宿泊研修の実施 ※ 内容は学校別、※ 検討2年目
令和6年度	合同修学旅行・宿泊研修・社会体験学習の実施

令和6年度に合同で旅行的行事を実施することを念頭に上表のように提案する

- ◎ 令和6年度は完全なる合同旅行的行事を実施する。出発集会～帰着集会まで
- ◎ 令和5年度は日程・宿泊施設・一部の研修内容を同一にした旅行的行事を実施する。宿泊施設において、研修についての交流を行う場を設定する。
- ◎ 令和4年度は日程と宿泊施設を同一にした旅行的行事を実施する。宿泊施設での互いの学校の研修について交流する場を設ける
- ◎ 令和3年度は令和4年度に実施する旅行的行事の日程・宿泊施設等を同一にするため、研修先の決定などさまざまな準備・計画を行う。

4. 総合的な学習の取組

年度	内容
令和3年度 ～ 令和6年度	「ふるさと岩内を愛し、志高く夢の実現に向かう生徒」の育成を目指したカリキュラムの実践 教育課程検討委員会等を活用した学校間交流

「ふるさと岩内を愛し、志高く夢の実現に向かう生徒」の育成をテーマに

- ◎ 令和6年度・令和5年度
義務教育学校に向けた総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画作成。岩内町版キャリアパスポートの充実。
- ◎ 令和4年度
小中、小小、中中の連携を図りながらの内容の見直し・検討。系統性・発展性についての検討。岩内町版キャリアパスポートの改善・活用含む。
- ◎ 令和3年度
令和2年度（小学校は令和元年度）作成の総合的な学習の時間の全体計画・年間指導計画について、PDCAの視点で見直しを図りながら内容の充実に努める。岩内町版キャリアパスポートの作成。

5. その他

その他諸行事の見直し計画を適宜行う

岩内に育つ子どもたちの9年間の教育課程編成

岩内町立岩内第二中学校

※ 義務教育学校創立までを「～義」、義務教育学校創立後を「義～」と記述

1. 小中9年間の教育課程の編成（各教科及び「岩内学」等の充実）

「～義」、「義～」…教科ごとの系統性や、教科間の関連を重視した指導計画の作成と授業展開が必要になる。また「総合的な学習の時間」はカリキュラムの中核的な位置づけになるため、これまで以上に各教科との関連も意識した構成が必要になる。例えば、小3は社会科と関連させた「地域学習」、小4は「身近な職業」、小5・6は旅行的行事と関連させた、「岩内町と他地域の比較」や、基本的な「職業学習」、中学校では、「SDGsの観点」等これからの世界にも目を向けた取組を柱とするなど、最終的には、「岩内の町をよりよい街にするには、どのような取組が必要か」といった学習を行う。その関連として、防災教育や、消費者教育、情報教育といった内容を組み込んでいくことが必要になる。

さらに、授業規律、生活のきまりを町内の学校でそろえる取組を行っており、「学び方の統一」を進めていくことも必要と考える。

2. 乗り入れ授業の改善・充実

・英語、数学、理科の乗り入れ授業

「～義」…これまで通り、中学校の教員が3教科で乗り入れ授業を行う。小の学級担任と中の教科担任の間で、授業の進捗等の情報交換を密に行う。

・他教科等における相互乗り入れ授業の推進

「～義」…国語、社会などでも単元を限定し、中学校教員が小学校へ乗入授業を行う。また、例えば、小学校の図工を得意とする教員が中学校の美術や技術の授業に単元限定で乗入授業を行うことも可能ではないか。

3. 小学校における教科担任制の導入

「～義」…小学校中学年から段階的に教科担任制を導入してはどうか。例えば、3・4年生は芸体系、プラスして5・6年生は、社会等で実施してはどうか。というのも、小学校の授業は、国語・算数の時数が多く設定されている。算数や理科、外国語活動は中学校からの乗入授業が実施されていくことになる。また、小学校で学習する国語は学習の基礎になる部分でもある。そのため、小学校での国語は学級担任が行うのが妥当と考える。

2022年度からは小学校でも教科担任制の導入が行われることから、早いうちから小学校の教員への意識付けにもなるのではないだろうか。

4. 日課表の検討

「～義」…乗り入れ授業を行うために教員が移動に要する時間を確保できる日課表を作成することが必要。例えば、「中休み」のような時間を設定し、3校時のスタート時間をそろえ

るなどの工夫があってもよいのではないか。

〔義〕…小学校45分、中学校50分の時程だとズレが生じる。例えば、先日視察に伺った、白糠町の西庶路学園では、学力保障の観点から小中学生ともに50分授業を実施していた。また、レポートの作成者が以前に勤務していた、小中併設の日本人学校では、小学部45分、中学部50分で授業を行うが、朝学活後の授業開始までの時間調整や、休み時間などで、開始時間と終業時間が同じになるよう調整していた。小中の教員がそれぞれの学部に乗入授業を行ったり、教科担任制を行ったりする場合、いずれかの調整が必要になる。

5. 年間行事予定に関する調整

〔義〕、〔義〕…入学式・卒業式・始業式・終業式・修了式はそろえることが前提になろう。運動会／体育大会、学芸会／文化祭を小中全学年合同で開催するとなった場合、小学校低学年の児童のことも考えると、1日日程での開催は難しいと考える。その場合、半日日程の13:00頃終了予定で組み立てるのが妥当か。また学年を区切って(3・4・2)をそれぞれ半日日程×3回などで行う方法も考えられる。

体育的行事では、異学年での合同種目等も組み込むことで、異学年交流を進める一助にもなると考える。

6. 旅行的行事に関する調整

〔義〕…旅行的行事については、小学6年生段階、中学3年生段階での実施でよいと考える。ただ合同で行う場合、人数が増える分の交通機関、宿泊先等の調整は必要。また、事前・事後の学習方法を毎回ではなくとも、小小・中中合同で行う場面を用意する必要がある。

7. 新入生体験入学の企画、調整

〔義〕…半日日程、1日日程のどちらで行うのも可。これまで通り、6年生に中学校での生活を入学前に体験させるためには有効で必要。ただし、インフルエンザ等が流行する1月後半から2月前半は避けたほうがよいと考える。

8. キャリア教育の充実

〔義〕、〔義〕…総合的な学習の時間に組み込む。

9. ICT、情報教育の充実

〔義〕、〔義〕…教員の側では、ICTの活用に関する校内研修(ミニ研修)の実施、情報教育は各教科、道徳、学活、総合など様々な内容と関連させて充実させることができる。

10. 児童・生徒作品の巡回展示

〔義〕…隣接する学校の児童生徒の作品等を目にすることで、視野も広まるのではないだろうか。文化的行事をうまく活用するのも一つの方法ではないだろうか。また、高等学校にも協力いただいて、高校生の作品に触れる機会があってもいいのではないかと考える。

11. その他、調整事項

〔義〕…定期的に(負担にならない範囲で)各校の生徒指導担当教員や、教務(学習指導)担当の教員で情報交流を行うのが有効と考える。